

前計画の総括について

1 各計画に掲げた将来像などについて

前計画では、それぞれ次のとおり、目指すまちの将来像などを掲げている。

(1) 京都市未来こどもはぐくみプラン

【目指すまちのすがた】

- 1 子どもを社会の宝として、子どもの最善の利益を追求するまち
- 2 「真のワーク・ライフ・バランス」が息づき、男女が子育てを共に担う主役として、安心して子どもを生み育てることのできるまち
- 3 「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和のとれた育成を図り、子どもたちがたくましく未来を切り拓くことのできるまち
- 4 家庭・地域・育ち学ぶ施設・企業・行政など社会のあらゆる場で、市民みんなが子どもの育ちと子育てを支え合い応援するまち
- 5 子どもが喜びの中で生まれ育ち、みんなが子育てに夢を持つことのできるまち

(2) はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン

【計画の目指すもの】

青少年が将来に夢と希望を持ち、「生きる力」を身につけ、社会を構成する担い手として様々な分野に挑戦し、活躍しながら大人へと成長することを支援していきます。

※「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」は上記2計画を補足するものとして位置付けているため、将来像等は独自に設定していない。

2 前計画の進捗状況に対する評価について

次ページ以降に計画の進捗状況を取りまとめたところ、次のような状況が見られている。

- ・ 厳しい財政状況の中にあっても、計画に掲げた施策には全て着手しており、既に完了又は実行段階に入っている。
- ・ 第1期子ども・子育て支援事業計画（「京都市未来こどもはぐくみプラン」と一体的に策定。[資料2](#)参照）に掲げた「量の見込み」などの指標についても概ね達成できている。
- ・ こうした施策の効果もあって、保育所等及び学童クラブ事業における年度当初待機児童ゼロの継続（それぞれ7年、9年連続）、全国学力・学習状況調査（小学校は政令市トップレベル。中学校は全国平均を上回る結果）、学校運営協議会の設置（全国トップレベル）など、大きな成果も上がっている。

こうしたことから、計画は全体として相当程度順調に進捗しており、計画に掲げた目指すべきまちの将来像などは一定具現化しているものと考えられる。

残された課題や新型コロナウイルス感染症に代表される新たな課題への対応に向けては、現行の「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」を推進していく。

各計画の進捗状況等について

1 京都市未来こどもはぐくみプラン

(1) 施策の進捗状況

年度	施策数				
		完了	推進中(充実)	推進中(継続)	着手前
27	247	2	69	174	2
28	247	3	46	198	0
29	247	4	50	193	0
30	247	4	45	198	0
01	247	6	20	221	0

(2) この間の主な取組

ア 子ども若者はぐくみ局の創設

- ・ 子どもや若者に関する施策を総合的に推進する「子ども若者はぐくみ局」を創設（平成29年4月）
- ・ 各区役所・支所に子どもに関する施策の一元的な窓口として、「子育て支援コンシェルジュ」機能を有した「子どもはぐくみ室」を設置（同年5月）

イ 保育所等及び学童クラブ事業における年度当初待機児童ゼロの継続

保育所等7年連続・学童クラブ事業9年連続（令和2年4月1日時点）

ウ 幼稚園、保育園（所）、認定こども園や学童クラブ事業等の幼児教育・保育等の一層の充実

- ・ 待機児童対策として、民間保育所等の整備助成を実施
- ・ 病児・病後児保育事業の拡充
- ・ 幼児教育・保育の無償化（令和元年10月）等

エ 子ども医療費支給制度の拡充

- ・ 支給対象を小学校6年生までから中学校3年生までに拡大（平成27年9月）
- ・ 3歳以上の通院医療費にかかる自己負担上限額の引下げ（令和元年9月診察分以降、月3,000円から月1,500円へ）

オ 学校運営協議会の設置拡大

㊦233校・園→㊥248校・園（全国トップレベル）（※各年度末時点）

カ 小中一貫学習支援プログラム等の実施による学力の向上

全国学力・学習状況調査市立小学校 3位（令和元年政令市20自治体）

全国学力・学習状況調査市立中学校 12位（令和元年政令市20自治体）

(3) 今後に向けた主な課題

ア 子どもを楽しく生み育てられる環境づくり

少子化対策、幼児教育・保育の質の確保・向上（保育の担い手確保、保育利用時間の長時間化対策など）、地域ぐるみの子育て支援 等

イ 困難を有する子どもやその家庭への支援

医療的ケア児・障害児への対応、児童虐待対策、社会的養護の推進 等

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響下における子育て世帯への支援

子育て支援施設等との連携、子育て世帯の孤立防止対策 等

2 はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン

(1) 施策の進捗状況

年度	施策数				
		完了	推進中(充実)	推進中(継続)	着手前
28	343	21	39	283	0
29	360	31	33	296	0
30	373	47	23	303	0
01	373	52	21	300	0

(2) 行動計画改定版策定時の数値目標と令和元年度実績

項目	目標 (令和2年度まで)	実績 (令和元年度)
青少年活動センターにおける地域交流事業数	65件	66件
青少年活動センターで活躍するボランティア数	970人	935人
青少年が参画している附属機関等の割合	20%	22.5%
ユースアクションプラン認証事業数	190件	110件
当該年度に京都若者サポートステーションの支援により、就職した人数	140人	38人
子ども・若者総合支援により、困難を有する子ども・若者が自立に向けて改善した割合	70%	30.0%

(3) この間の主な取組

ア 子ども若者はぐくみ局の創設（再掲）

子どもや若者に関する施策を総合的に推進する「子ども若者はぐくみ局」を創設（平成29年4月）

イ 青少年の市政参加の促進

青少年が参画している審議会等の割合について3年連続で目標達成（㊸：22.4%，㊹：22.5%）

ウ 青少年活動センターを拠点とした若者文化の発信

若者文化発信事業「ユスカル！～若者文化市～」を開催（令和元年11月，参加者約5千名）

エ ひきこもり支援の再構築

相談窓口の一元化をはじめとしたひきこもり支援の再構築に向け、「ひきこもり支援の在り方検討専門分科会」を設置（令和元年10月）

(4) 今後に向けた主な課題

ア 若者のライフデザイン形成

キャリア教育の推進，成年年齢引下げへの対応 等

イ 社会参加の促進

地域活動や市政への参加の更なる促進 等

ウ これまでの若年層への支援に加え，長期化・高齢化するひきこもりへの対応

早期対応，当事者や家族に寄り添った支援の推進，関係機関の連携 等

エ 新型コロナウイルス感染症の影響下における若者支援

青少年活動センター，京都若者サポートステーションを活用し，支援を実施

3 京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画

(1) 施策の進捗状況

年度	施策数	進捗状況			
		完了	完了	推進中(充実)	推進中(継続)
29	133	0	27	105	1
30	133	1	17	115	0
01	133	2	15	116	0

(2) この間の主な取組

ア 地域や民間団体による子ども食堂など子どもの居場所づくりの取組への支援の充実

- ・ 開設資金の補助制度創設
(平成29～, 補助件数: 29 15件, 30 11件, ① 3件)
- ・ アドバイザー事業の実施
(平成29～, 派遣回数: 29 63回, 30 69回, ① 84件) 等

イ 生活困窮世帯の子ども等に対する学習支援の充実

- ・ 実施拠点の増 (29 17箇所→30 18箇所)
- ・ 夏休み学習会の実施
(平成22～, 学習会登録者数: 29 201人, 30 321人, ① 319人)
- ・ ボランティアへの謝礼を増額 (30 交通費相当額→① 1,000円/回) 等

ウ 全市立学校に「スクールカウンセラー」を配置完了 (H27年度)

エ 「スクールソーシャルワーカー」の配置拡充 (27 23校→30 51校→① 76校) 令和元年度に全中学校区に配置完了

オ 社会全体で子ども・若者を支える「京都市はぐくみ未来応援事業」の創設 「子ども・若者のために何かしたい」という思いの具現化 (平成29～: 29 195件, 30 211件, ① 269件の寄付)

カ 子育て世帯の安定に資する経済的支援

- ・ 幼児教育・保育の無償化 (令和元年10月)
- ・ 3歳以上の通院医療費にかかる自己負担上限額の引下げ (令和元年9月診察分以降, 月3,000円から月1,500円へ)

(3) 今後に向けた主な課題

ア 子どもや若者への生活・学習・社会体験の推進

子どもや若者の居場所づくり, 学習支援, 文化芸術や社会体験づくり 等

イ 家庭への子育て・経済・就労支援の推進

妊娠期からの切れ目のない支援, ひとり親家庭支援センター「ゆめあす」におけるひとり親家庭支援 等

ウ 貧困家庭等を支える環境づくりの推進

地域, 関係機関, 企業等と連携した情報共有の強化ときめ細かな情報提供 等